



613-000996 Rev.A 080725

CentreCOM® GS908S-TP 取扱説明書



ギガビットイーサネット・スマート・タップスイッチ

CentreCOM® **GS908S-TP**



取扱説明書

CentreCOM® **GS908S-TP**

取扱説明書

安全のために

必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-120V で動作します。



電圧注意

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

正しく設置する 縦置き注意

取扱説明書に従って、正しく設置してください。

不適切な設置により、放熱が妨げられると、発熱による火災の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いをいねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る
使用

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

このたびは、CentreCOM GS908S-TPをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートを8ポート装備したギガビットイーサネット・スマート・スイッチです。

本製品はWebブラウザを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) をサポートしています。Webブラウザから本製品にアクセスして、設定の変更や参照を行うことができます。

本製品は本体上面のForce MDI切替スイッチ、WEB GUI切替スイッチにより、簡単にForce MDIのON/OFFや本体宛IP通信のON/OFFの設定を行うことができます。

本書では、本製品の設置と接続、WEB GUI設定手順、機能の詳細設定、および導入例など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

本書はファームウェアバージョン「1.0.0」をもとに記述されています。

本書をよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

表記について

アイコン

本書で使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM GS908S-TPを意味します。場合によっては、GS908S-TPのようにCentreCOMを省略して記載します。

目次

はじめに	6
製品の最新情報について	6
表記について	7
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 特長	13
ハードウェア	13
サポート機能	14
1.3 各部の名称と働き	15
上面	15
下面	17
背面	18
1.4 LED表示	19
Power LED	19
ポートLED	19
2 設置と接続	21
2.1 設置方法の確認	22
設置するときの注意	22
2.2 マグネットによる取り付け	23
設置方向	23
2.3 ネットワーク機器の接続	24
ケーブル	24
2.4 電源ケーブルの接続	25
3 設定の手順	27
3.1 操作の流れ	28
3.2 設定の準備	29
設定用コンピューターの設定	29
3.3 設定の開始(ログイン)	33

ログインする	33
Web 設定画面の構成	34
3.4 設定の反映、保存、終了(ログアウト)	35
設定の反映と保存	35
ログアウト	35

4 設定と操作 37

4.1 概要	38
Configuration、Maintenanceメニュー	38
4.2 システムの設定	39
スイッチ情報の確認	41
システム名の設定	41
ユーザー名の設定	42
パスワードの設定	43
タイムアウト時間の設定	44
IPホストの設定	45
ICMPメッセージの設定	47
BPDU透過、EAP透過機能の設定	47
WEB GUI 切替スイッチの設定	48
Force MDI切替スイッチの設定	49
4.3 ポートの設定	50
ポート設定メニュー	50
ポートの設定	51
ポートの通信状態の確認	53
4.4 バーチャルLANの設定	54
ポートVLAN/タグVLANの設定	55
セレクトアブルポート・マルチプルVLANの設定	61
4.5 ポートミラーリング	65
ポートミラーリング	65
4.6 パケットストームプロテクション	67
パケットストームプロテクション	67
4.7 ループガード	68
ループガード	68

目次

4.8	再起動する.....	70
4.9	工場出荷時の設定に戻す.....	71
4.10	ファームウェアのアップデート.....	72
4.11	設定ファイルのアップロード・ダウンロード.....	74
	バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのアップロード.....	75
	バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのダウンロード.....	76
5	付録	77
5.1	困ったときに.....	78
	システム情報を確認する.....	78
	LED表示を確認する.....	78
	トラブル例.....	78
5.2	仕様.....	81
	コネクタ・ケーブル仕様.....	81
	本製品の仕様.....	83
5.3	デフォルト設定.....	84
5.4	保証とユーザーサポート.....	85
	保証と修理.....	85
	ユーザーサポート.....	85
	サポートに必要な情報.....	86
	ご注意.....	87
	商標について.....	87
	電波障害自主規制について.....	88
	廃棄方法について.....	88
	日本国外での使用について.....	88
	マニュアルバージョン.....	88

1

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

<input type="checkbox"/>	CentreCOM GS908S-TP	1台
<input type="checkbox"/>	取扱説明書(本書)	1冊
<input type="checkbox"/>	製品仕様書(英文)	1枚
<input type="checkbox"/>	ソフトウェア使用権許諾契約書	1枚
<input type="checkbox"/>	製品保証書	1枚
<input type="checkbox"/>	シリアル番号シール	2枚

1.2 特長

本製品の主な特長は次のとおりです。

ハードウェア

本製品のハードウェア的な特長を紹介します。

- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートを8ポート装備
- 小型で軽量の筐体による機能的なデザイン
- 省エネ機能(常時有効)
- ディップスイッチにより簡単にForce MDIのON/OFFが可能(MDI/MDI-Xの固定、自動切替が可能)
- ディップスイッチにより簡単に本体宛IP通信のON/OFFが可能
- 最大8KのMACアドレスを登録可能
- 背面のマグネットによりスチール製の壁面への設置が可能

1.2 特長

サポート機能

本製品の主な機能は次のとおりです。サポートする機能はファームウェアのバージョンに依存しますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

マネージメント

- WEB GUI
- Webによるファームウェアのアップロード、設定ファイルのダウンロード・アップロードが可能

スイッチング

- MDI/MDI-X自動切替(固定設定も可能)
- オートネゴシエーション機能(固定設定も可能)
- フローコントロール
Half Duplex時: バックプレッシャー
Full Duplex時: IEEE 802.3x PAUSE
- EAP透過/BPDU透過
- ループガード(受信レート検出)
- パケットストームプロテクション
- ポートミラーリング
- イングレスフィルタリング(常時有効)
- 9600ByteのJumboフレーム対応(1000Mbps時のみ)
(10Mbps/100Mbps時は、最大1536Byte)

バーチャルLAN

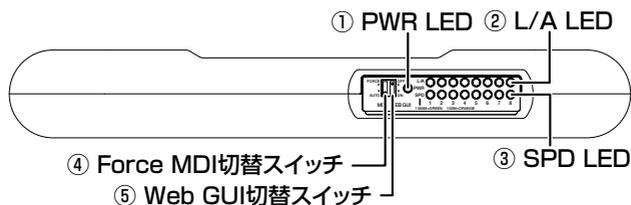
- ポートVLAN
- IEEE 802.1QタグVLAN
- マルチプルVLAN(セレクトابلポート・マルチプルVLAN)

フォワーディングデータベース

- 最大8KのMACアドレス登録

1.3 各部の名称と働き

上面



① PWR LED (緑)

本製品の電源供給状態を表すLEDランプです。

 19 ページ「LED 表示」

② L/A LED (緑)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表すLEDランプです。

 19 ページ「LED 表示」

③ SPD LED

接続先の機器との接続状態を表示するLED ランプです。

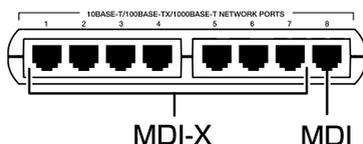
 19 ページ「LED 表示」

④ Force MDI切替スイッチ

MDI/MDI-Xの設定をForce MDIにするか、MDI/MDI-Xをポートごとに設定するかを切り替えるためのスイッチです。デフォルトはFORCE(上)側です。

○ FORCE (スイッチが上側の状態)

Force MDIが有効になります。1～7番ポートがMDI-X、8番ポートがMDIで固定されます。



1.3 各部の名称と働き

○ AUTO (スイッチが下側の状態)

Web 設定画面でポートごとに MDI/MDI-X 自動切替、MDI/MDI-X の固定設定が行えます。デフォルトは MDI/MDI-X 自動切替 (Auto) です。



- ・ Force MDI 切替スイッチが「FORCE」(上) 側の場合、Web 設定画面で MDI/MDI-X の設定を行うことはできません。
- ・ 本製品の Web 設定画面より、Force MDI 切替スイッチの有効/無効が設定できます。無効に設定すると Force MDI 切替スイッチの FORCE/AUTO にかかわらず、Web 設定画面での設定が反映されます。
- ・ Force MDI 切替スイッチを切り替えるとすぐに設定が反映されます。



49 ページ「Force MDI 切替スイッチの設定」

⑤ WEB GUI 切替スイッチ

本体宛の IP 通信の有効/無効を切り替えるためのスイッチです。デフォルトは無効(上)側です。

○ ON (スイッチが下側の状態)

本体宛の IP 通信が有効になります。Web ブラウザーから本製品にアクセスし、設定の変更が行えます。

○ OFF (スイッチが上側の状態)

本体宛の IP 通信が無効になります。

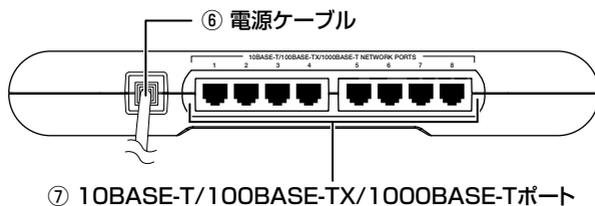


- ・ 本製品の Web 設定画面より、WEB GUI 切替スイッチの有効/無効が設定できます。無効に設定すると WEB GUI 切替スイッチの ON/OFF にかかわらず、Web 設定画面へログインできます。
- ・ WEB GUI 切替スイッチを切り替えるとすぐに設定が反映されます。



48 ページ「WEB GUI 切替スイッチの設定」

下面



⑥ 電源ケーブル

電源コンセントに接続するためのケーブルです。

 25 ページ「電源ケーブルの接続」

⑦ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

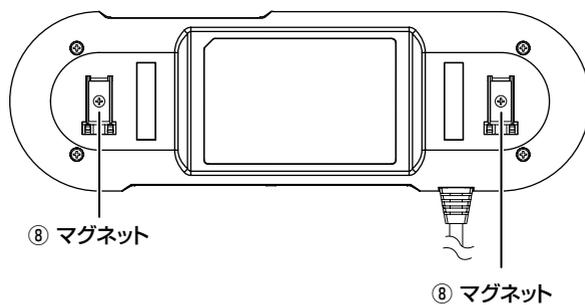
UTPケーブルは、10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上を使用します。

通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動切替が有効な場合、接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

 24 ページ「ネットワーク機器の接続」

1.3 各部の名称と働き

背面



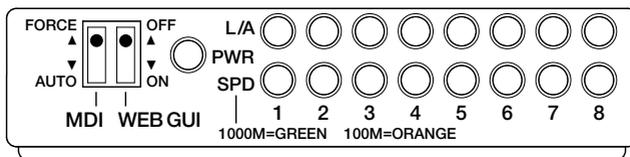
⑧ マグネット

本製品をスチール製の壁面に設置するためのマグネットです。

 23 ページ「マグネットによる取り付け」

1.4 LED 表示

本体上面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDがついています。



Power LED

本製品の電源供給状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
PWR	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

ポート LED

2種類のLEDランプで各ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
SPD	緑	点灯	1000Mbpsでリンクが確立しています。
	橙	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
	—	消灯	10Mbpsでリンクが確立しています。 または、リンクが確立していません。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明します。

2.1 設置方法の確認

本製品は次の方法による設置ができます。

- 水平方向の設置
- マグネットによるスチール製の壁面への設置



・弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

・水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 底部を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本体の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子には触らないでください。(静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因となります。)

2.2 マグネットによる取り付け

本製品は、背面のマグネットを使用することで、スチール製の壁面に取り付けることができます。



注意

- ・取り付けの際は機器およびケーブルの重みにより機器が落下しないように確実に取り付け、設置してください。ケガ、故障の原因になることがあります。
- ・機器をマグネットで高所に取り付けしないでください。落下によるケガ、機器破損の恐れがあります。
- ・振動、衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下によるケガ、故障の原因となる場合があります。
- ・OA デスク等にマグネットで機器を取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつく恐れがあります。
- ・マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去される恐れがあります。
- ・機器をマグネットでパソコンおよびディスプレイなどの電子機器には取り付けしないでください。
- ・設置面の状態によってはマグネットの十分な強度を得られないことがあります。

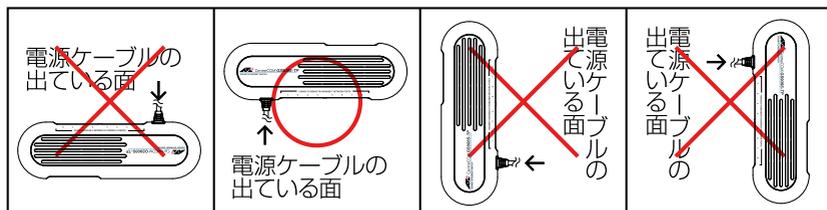


ヒント

- ・マグネットの設置面によっては、内部の部品が磁束の影響を受けることで通信に不具合が起る可能性があります。その際は、マグネット設置面を変更するなどの対応を行ってください。

設置方向

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



警告

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

2.3 ネットワーク機器の接続

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

UTPケーブルのカテゴリー

10BASE-Tの場合はカテゴリー3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリー5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリー5以上のUTPケーブルを使用します。

UTPケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動切替が有効な場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

通信速度を10Mbps/100Mbpsに固定設定した場合、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要があります。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

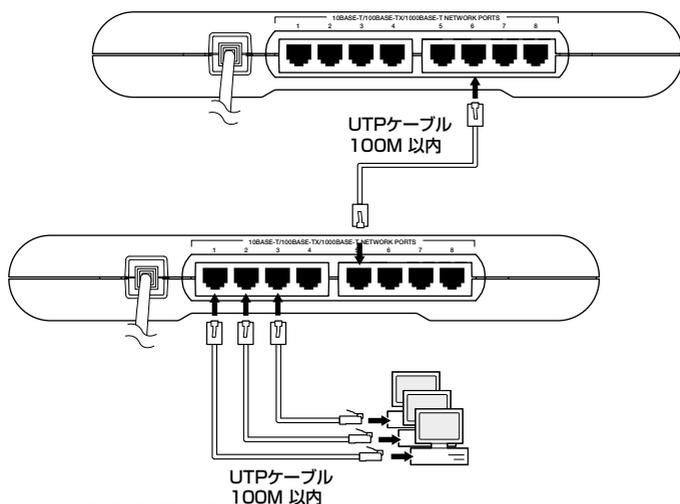


注意

Force MDI切替スイッチが「FORCE」(上)側の場合、Web設定画面でMDI/MDI-Xの設定を行うことはできません。1～7番ポートがMDI-X、8番ポートがMDIで固定されます。

UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m以内になしてください。



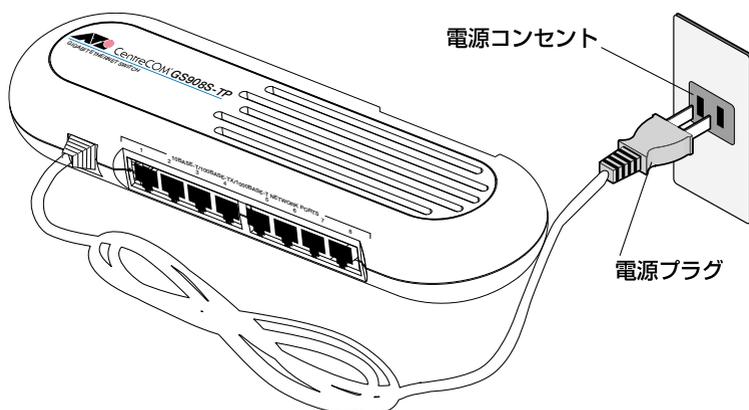
2.4 電源ケーブルの接続

本製品は、電源ケーブルを電源コンセントに接続することで電源が入ります。



本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

- 1 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 2 電源が入ると、本体上面のPWR LED（緑）が点灯します。
- 3 電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

3

設定の手順

この章では、本製品の設定および接続するための手順について説明します。

3.1 操作の流れ

本製品の接続から設定までの流れは次のとおりです。

STEP 1 ネットワーク機器を接続する

本製品と設定用コンピューターをUTPケーブルで接続します。

 24ページ「ネットワーク機器の接続」



STEP 2 設定用のコンピューターを設定する

設定用のコンピューターを本製品のインタフェース仕様にあわせて設定します。

 29ページ「設定用のコンピューターの設定」



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
初期ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名およびパスワードは大文字・小文字を区別して入力します。

 33ページ「ログインする」



STEP 4 設定を始める

本製品の設定を行います。

 39ページ「システムの設定」



STEP 5 ログアウトする

本製品への設定が終了したらログアウトします。

 35ページ「ログアウト」

3.2 設定の準備

設定用コンピューターの設定

設定環境

本製品の設定はWeb ブラウザーから行います。下記のOS、Web ブラウザーがインストールされたコンピューターを用意してください。

- ・ Windows XPまたはWindows Vista
- ・ Microsoft Internet Explorer Version 6 または7
- ・ JavaScript を使用

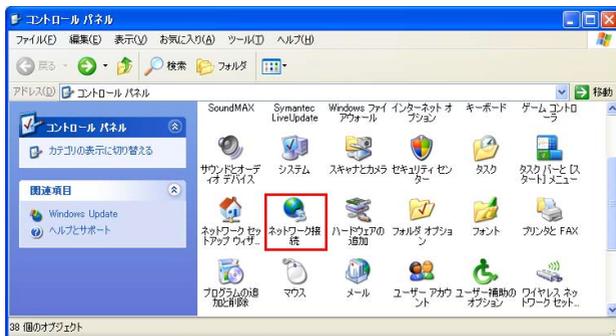
本製品ご購入時のIP アドレスは次のとおりです。

- ・ 192.168.1.1

設定用コンピューターのIPアドレスを変更

設定用コンピューターのIP アドレスを、本製品のIP アドレスの設定に合わせて変更します。ここでは、Windows XP、Internet Explorer 7 を使用する場合を例として説明します。

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の「ネットワーク接続」アイコンをダブルクリックしてください。



- 2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。



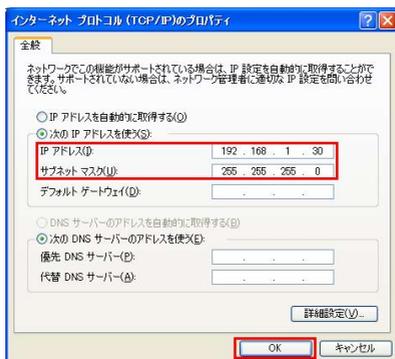
3.2 設定の準備

- 3 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。



- 4 「IP アドレス」と「サブネットマスク」に値を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。「IP アドレス」には「192.168.1.xxx」(xxx は、1 を除く 2 から 254 までの値)を、「サブネットマスク」には「255.255.255.0」を設定します。

変更前の IP アドレスは、メモをとるなどして記録し、本製品の設定後に、もとの値に戻せるようにしてください。アドレスを設定します。



- 5 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ります。「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じてください。

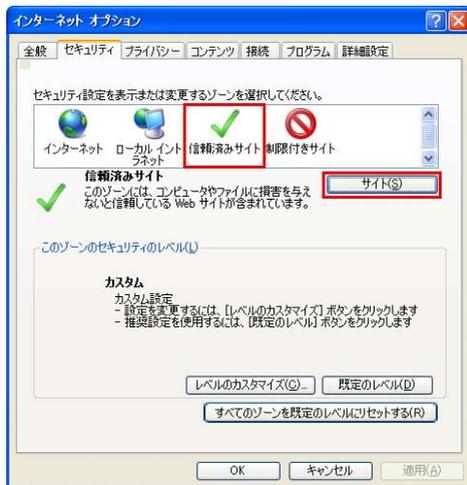
Java Scriptを有効にする

設定用コンピューターでJava Scriptを無効に設定している場合、Java Scriptを有効にする必要があります。以下に本製品へのアクセスに対してのみ、JavaScriptを有効にする手順を説明します。ここでは、Windows XP、Internet Explorer 7を使用する場合を例として説明します。

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の「インターネットオプション」アイコンをクリックしてください。

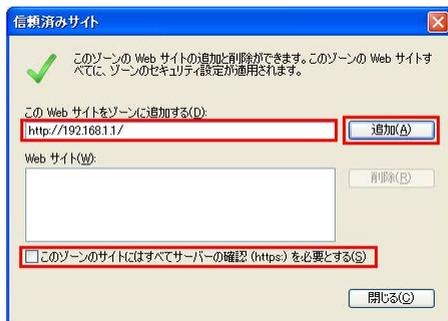


- 2 「セキュリティ」タブをクリックしてください。「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。

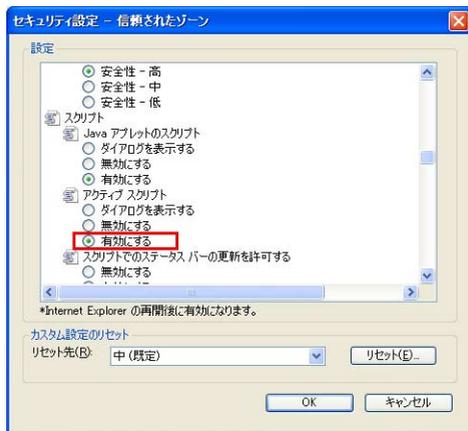


3.2 設定の準備

- 「http://192.168.1.1/」を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:)を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1」が表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。「信頼済みサイト」ダイアログボックスが閉じます。



- 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。



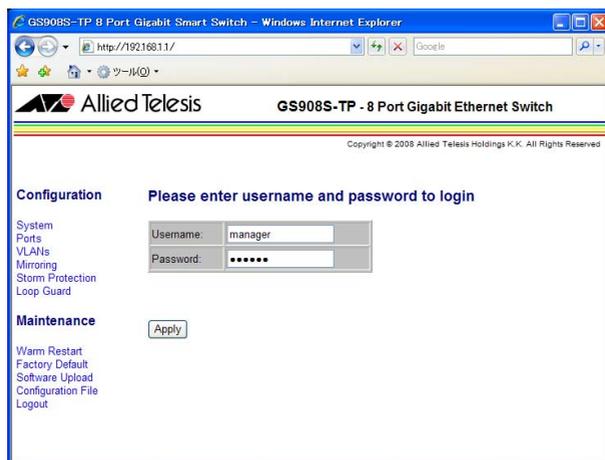
- 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。
- Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

3.3 設定の開始（ログイン）

ログインする

本製品の起動およびWeb ブラウザーへログインする手順は、次のとおりです。

- 1 本製品の電源を入れます。
システムが起動し、PWR LED（緑）が点灯します。
- 2 WEB GUI切替スイッチを「ON」（下）側に設定します。
- 3 Web ブラウザーのアドレス欄に本製品のIP「192.168.1.1」を入力し、「Enter」キーを押します。
- 4 ログイン画面が表示されます。
「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力して、「Apply」ボタンをクリックします。入力する文字列は大文字と小文字の区別をしてください。入力したパスワードは「●」で表示されます。



- 5 ログインに成功するとWeb 設定画面が表示されます。Web 設定画面で本製品のサポートする機能の設定や参照を行います。



ヒント

ログインセッションのタイムアウト時間は初期設定で 300 秒に設定されているため、ログイン後、キー入力がない状態が 300 秒（5 分）継続すると自動的にログアウトします。タイムアウト時間は、「System Configuration」の「Console Timeout(sec)」で変更できます。



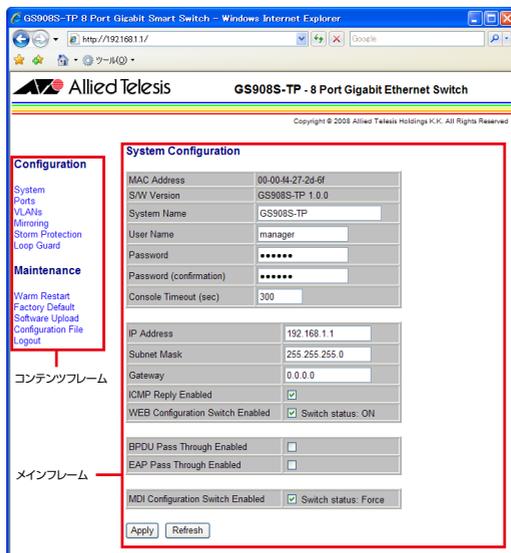
注意

本製品は、1 ユーザー（1IP）のみ WEB GUI へアクセスできます。同時に複数のユーザーがログインすることはできません。

3.3 設定の開始 (ログイン)

Web 設定画面の構成

Web 設定画面は、コンテンツフレームとメインフレームに分かれています。また、メインフレーム上で機能の選択が可能なお場合には、プルダウンメニューから選択するか、チェックボックスにチェックを付けます。



コンテンツフレーム

本製品の設定メニューです。

設定メニューは、用途別に「Configuration」と「Maintenance」メニューに分けられています。クリックするとメインフレームに設定情報などが表示されます。

メインフレーム

各機能の設定の変更や参照を行う画面です。

コンテンツフレームのメニューをクリックすると表示されます。

3.4 設定の反映、保存、終了（ログアウト）

設定の反映と保存

ページに「Apply」ボタンが表示されている場合、ページを移動する前に、必ず「Apply」ボタンをクリックしてください。「Apply」ボタンをクリックすると、現在の設定画面における設定内容が直ちに反映し保存されます。

ログアウト

Web設定画面からログアウトするには、コンテンツフレームから「Logout」をクリックしてください。ログアウトに成功すると、ログイン画面が表示されます。



4

設定と操作

この章では、本製品を運用・管理するための操作方法について説明しています。

4.1 概要

Configuration、Maintenance メニュー

本章では、本製品を運用管理するための操作として、コンテンツフレームの「Configuration」メニューおよび「Maintenance」メニューの説明をします。

Configuration メニュー

4.2 システムの設定

System

4.3 ポートの設定

Ports

4.4 バーチャルLANの設定

VLANs

4.5 ポートミラーリングの設定

Mirroring

4.6 パケットストームプロテクションの設定

Storm Protection

4.7 ループガードの設定

Loop Guard

Maintenance メニュー

4.8 再起動

Warm Restart

4.9 工場出荷時に設定を戻す

Factory Default

4.10 ファームウェアのアップデート

Software Upload

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

Configuration File

4.2 システムの設定

本製品にログインすると「System Configuration」画面が表示されます。この画面で本製品の設定状態が確認、設定ができます。

The screenshot shows a web browser window titled "GS908S-TP 8 Port Gigabit Smart Switch - Windows Internet Explorer". The address bar shows "http://192.168.1.1/". The page header includes the Allied Telesis logo and the title "GS908S-TP - 8 Port Gigabit Ethernet Switch". Below the header, there is a copyright notice: "Copyright © 2008 Allied Telesis Holdings K.K. All Rights Reserved".

The main content area is titled "System Configuration" and is divided into two main sections: "Configuration" and "Maintenance".

Configuration

- System: MAC Address (00-00-44-27-2d-6f), SAV Version (GS908S-TP 1.0.0), System Name (GS908S-TP)
- Ports: User Name (manager), Password (masked with dots)
- VLANs: Password (confirmation) (masked with dots)
- Mirroring: Console Timeout (sec) (300)
- Storm Protection: IP Address (192.168.1.1), Subnet Mask (255.255.255.0), Gateway (0.0.0.0)
- Loop Guard: ICMP Reply Enabled (checked), WEB Configuration Switch Enabled (checked, Switch status: ON)

Maintenance

- Warm Restart: BPDU Pass Through Enabled (unchecked), EAP Pass Through Enabled (unchecked)
- Factory Default: MDI Configuration Switch Enabled (checked, Switch status: Force)
- Software Upload: (no fields visible)
- Configuration File: (no fields visible)
- Logout: (no fields visible)

At the bottom of the configuration area, there are two buttons: "Apply" and "Refresh".

4.2 システムの設定

パラメーター

MAC Address	本製品のMACアドレスです (表示のみ)。
S/W Version	本製品のファームウェアバージョンです (表示のみ)。
System Name	本製品のシステム名です。 初期システム名は「GS908S-TP」です。
User Name	新しく設定するユーザー名です。 初期ユーザー名は「manager」です。
Password	新しく設定するパスワードを入力します。 初期パスワードは「friend」です。
Password (confirmation)	新しく設定したパスワードを再入力します。
Console Timeout (sec)	WEB GUIのタイムアウト時間です。 デフォルトは「300」です。
IP Address	設定されているIPアドレスです。 デフォルトは「192.168.1.1」です。
Subnet Mask	設定されているネットワークのサブネットマスクです。 デフォルトは「255.255.255.0」です。
Gateway	設定されているネットワークのゲートウェイアドレスです。 デフォルトは「0.0.0.0」です。
ICMP Reply Enabled	本体宛ICMP通信への応答の設定状態です。 デフォルトは「Enable」です。
WEB Configuration Switch Enabled	WEB GUIディップスイッチの有効/無効の設定状態です。 デフォルトは「Enable」です。
BPDU Pass Through Enabled	BPDU透過機能の設定状態です。 デフォルトは「Disable」です。
EAP Pass Through Enabled	EAP透過機能の設定状態です。 デフォルトは「Disable」です。
MDI Configuration Switch Enabled	MDIディップスイッチの有効/無効の設定状態です。 デフォルトは「Enable」です。

スイッチ情報の確認

本製品のMACアドレスとファームウェアバージョンの確認が行えます。

MAC Address	00-00-f4-27-2d-6f
S/W Version	GS908S-TP 1.0.0

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。

システム名の設定

システム名を設定します。初期システム名は「GS908S-TP」です。システム名は半角英数字で16文字まで入力できます。

System Name	<input type="text" value="GS908S-TP"/>
-------------	--

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 「System Name」テキストボックスにユーザー名を入力します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。



システム名は16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別されます。スペース、ダブルクォート「」、クエスチョン「？」は入力できません。

4.2 システムの設定

ユーザー名の設定

ログインユーザー名を設定します。セキュリティ確保のために初期ユーザー名を変更することをお勧めします。初期ユーザー名は「manager」です。パスワードは半角英数字で16文字まで入力できます。

User Name	manager
-----------	---------

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 「User Name」テキストボックスにユーザー名を入力します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。



注意

ここで変更したユーザー名は忘れないようにしてください。ユーザー名を忘れると、本製品にアクセスできなくなります。



ヒント

ユーザー名は16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別されます。スペース、ダブルクォート「」、クエスチョン「？」は入力できません。

パスワードの設定

ログインパスワードを設定します。セキュリティ確保のために初期パスワードを変更することをお勧めします。初期パスワードは「friend」です。パスワードは半角英数字で16文字まで入力できます。

Password	●●●●●●
Password (confirmation)	●●●●●●

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Password」テキストボックスにパスワードを入力します。
- 4 「Password (confirmation)」テキストボックスに手順3で入力したパスワードと同じものを入力します。
- 5 「Apply」ボタンをクリックします。



注意

ここで変更したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、本製品にアクセスできなくなります。



ヒント

パスワードは16文字以内の半角英数字で入力し、必ず設定する必要があります。大文字・小文字は区別します。スペース、ダブルクォート「"」、クエスチョン「?」は入力できません。また、入力したパスワードは「●」で表示されます。

4.2 システムの設定

タイムアウト時間の設定

ログインセッションのタイムアウト時間を設定します。デフォルトは300秒(5分)です。設定時間は「10秒～14400秒」の間で設定できます。「0」を設定するとタイムアウトしません。

Console Timeout (sec)	<input type="text" value="300"/>
-----------------------	----------------------------------

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Console Timeout (sec)」テキストボックスにタイムアウト時間を入力します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。

IP ホストの設定

本製品はご購入時の状態で、レイヤー 2 スイッチとして機能するように設定されています。単なるスイッチとして使う場合、設置・配線後電源を入れるだけで設定は特に必要ありません。

以下に、本製品の IP アドレスを変更するための基本設定について説明します。



ヒント

本製品はデフォルトで IP アドレスが 192.168.1.1 に設定されています。本製品を複数台使用する場合や、すでに IP アドレス 192.168.1.1 を使用しているネットワークの場合は、本製品を使用する前に IP アドレスの設定変更が必要です。

IP Address	192.168.1.1
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	0.0.0.0

パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

IP Address	設定する IP アドレスを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト設定は次のとおりです。 形式：XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト：192.168.1.1
Subnet Mask	設定するネットワークのサブネットマスクを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト設定は次のとおりです。 形式：XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト：255.255.255.0
Default Gateway	設定するネットワークのゲートウェイアドレスを入力します。 半角数字で入力します。形式およびデフォルト値は次のとおりです。 形式：XXX.XXX.XXX.XXX デフォルト：0.0.0.0

4.2 システムの設定

手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 「IP アドレス」、「Subnet Mask」、「Gateway」をテキストボックスに入力します。
- 4 ポップアップウィンドウが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。
- 5 「Apply」ボタンをクリックします。

変更はすぐに反映されます。変更したIPアドレスをWebブラウザのアドレスバーに入力し、Webブラウザの「更新」をクリックすると、ログイン画面が表示されます。



注意

ここで変更したIPアドレスは忘れないようにしてください。IPアドレスを忘れると、本製品にアクセスできなくなります。



ヒント

本製品のデフォルトでは、全ポートがVLAN 1 に所属しており、任意のポートからWeb設定画面にログインできます。



54 ページ 「バーチャル LAN の設定」

ICMP メッセージの設定

ICMPメッセージへの応答を許可/拒否の設定を行います。

機器の疎通確認等の目的で、接続機器からPingコマンドにより送信されてくるICMP (Internet Control Message Protocol) エコーメッセージへの応答を許可/拒否できます。デフォルトはICMPメッセージへの応答を許可します。



手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 ICMPメッセージへの応答を許可する場合、チェックボックスにチェックを付けます。ICMPメッセージへの応答を拒否する場合、チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。

BPDU 透過、EAP 透過機能の設定

BPDU 透過、EAP 透過機能の有効/無効を設定します。

スパンニングツリーの経路設定のための制御情報であるBPDU (Bridge Protocol Data Unit) パケットおよびEAP (Extensible Authentication Protocol) パケットを受信したときのフォワーディングについての設定を行います。

デフォルトはBPDU 透過、EAP 透過機能は無効です。



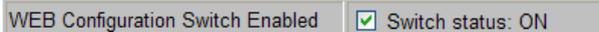
手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 BPDU 透過、EAP 透過機能を有効にする場合、チェックボックスにチェックを付けます。BPDU 透過、EAP 透過機能を無効にする場合、チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。

4.2 システムの設定

WEB GUI 切替スイッチの設定

WEB GUI切替スイッチの有効/無効を設定します。
デフォルトは「有効」です。



手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 WEB GUI切替スイッチを有効にする場合、チェックボックスにチェックを付けます。WEB GUI切替スイッチを無効にする場合、チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。



注意

WEB GUI 切替スイッチを無効にすると、デフォルトではすべてのコンピューターから、Web 設定画面に接続できてしまうのでご注意ください。WEB GUI 切替スイッチを無効にする場合は、VLAN を設定し適切に管理することをお勧めします。

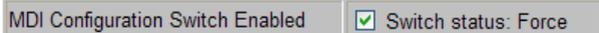


ヒント

WEB GUI 切替スイッチを「無効」にした場合、本製品上面の WEB GUI 切替スイッチの ON/OFF にかかわらず、Web 設定画面へ接続できます。

Force MDI 切替スイッチの設定

Force MDI切替スイッチの有効/無効を設定します。
デフォルトは「有効」です。



手順

- 1 コンテンツフレームから「System」をクリックします。
- 2 メインフレームに「System Configuration」画面が表示されます。
- 3 Force MDI切替スイッチを有効にする場合、チェックボックスにチェックを付けます。Force MDI切替スイッチを無効にする場合、チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。



MDI 切替スイッチを「無効」にした場合、本体上面の Force MDI 切替スイッチの FORCE/AUTO にかかわらず、MDI/MDI-X の設定変更ができます。

4.3 ポートの設定

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tポートを8ポート装備しています。

本製品のスイッチポートはご購入時の状態ですべて有効 (Enabled) に設定されており、互いに通信が可能な状態にあります。

ポート設定メニュー

「Port Configuration」画面では、ポートの設定と現在のポート状態の確認ができます。

The screenshot shows the web interface for the GS908S-TP switch. The browser title is "GS908S-TP 8 Port Gigabit Smart Switch - Windows Internet Explorer". The address bar shows "http://192.168.1.1/". The page header includes the Allied Telesis logo and the product name "GS908S-TP - 8 Port Gigabit Ethernet Switch".

The main content area is titled "Port Configuration" and contains a table with the following data:

Port	Link	Mode	Flow Control	MDI/MDI-X
1	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
2	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
3	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
4	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
5	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
6	1000FDX	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
7	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X
8	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI

Below the table, a message reads: "MDI configuration switch has been set as "Force"". At the bottom of the configuration area, there are "Apply" and "Refresh" buttons.

ポートの設定

ポートの設定の変更や、通信状態の確認を行います。

Port	Link	Mode	Flow Control	MDI/MDI-X
1	Down	Auto Negotiation	<input checked="" type="checkbox"/>	Force MDI-X

各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

Port	ポート番号です。
Link	ポートのリンク状態です。
Mode	ポートの通信速度とデュプレックスモードです。 Auto Negotiation 10M/Half 10M/Full 100M/Half 100M/Full 1000M/Full Disabled
Flow Control	フロー制御の設定を行います。 チェックボックスで有効/無効を切り替えます。 有効(デフォルト): チェックを付ける。 無効: チェックを外す。 10M/Fullまたは100M/Fullで固定設定した場合、チェックボックスのチェックは自動的に外れ、「無効」で固定設定されます。
MDI/MDI-X	ポートのMDI/MDI-Xを選択します。 Auto Force MDI Force MDI-X 本体上面のForce MDI切替スイッチが「Auto」(下)側にあるときのみ設定できます。 通信速度を10Mbpsまたは100Mbpsで固定設定した場合、「Auto」は選択できません。



フローコントロールとパケットストームプロテクションを併用した場合、フローコントロールはパケットストームプロテクションで設定したフレームに対して動作しません。

4.3 ポートの設定

手順

例として次の設定手順を説明します。

ポート1～5までを有効にし、ポート6～8までを無効にします。

通信モードを1000Mbps/Fullに固定設定する。

MDI/MDI-XをMDIに固定設定する。

フローコントロールを有効にする。

- 1 本製品上面のForce MDI切替スイッチを「AUTO」（下）側に設定します。
- 2 Web設定画面にログインし、コンテンツフレームから「Ports」をクリックします。
- 3 メインフレームに「Port Configuration」画面が表示されます。
- 4 ポート1～5までのパラメーターを、ポートごとに設定します。
「Mode」のプルダウンメニューより「1000 Full」を選択します。
「Flow Control」のチェックボックスにチェックを付けます。
「MDI/MDI-X」のプルダウンメニューより「Force MDI」を選択します。
- 5 ポート6～8までのパラメーターを、ポートごとに設定します。
「Mode」のプルダウンメニューより「Disabled」を選択します。
- 6 「Apply」ボタンをクリックします。
設定が反映され、「Link」に回線状態が表示されます。



注意

- ・通信速度を10Mbpsまたは100Mbps固定に設定した場合、MDI/MDI-Xの「Auto」は選択できません。
- ・Force MDI切替スイッチが「FORCE」（上）側の場合、Web設定画面でMDI/MDI-Xの設定を行うことはできません。

ポートの通信状態の確認

「Port Configuration」の「Link」でポートの通信状態の確認が行えます。

パラメーター

表示	回線状態	背景色
Down	リンクダウン	赤
10HDX	10Mbps/Half Duplexで接続中	緑
10FDX	10Mbps/Full Duplexで接続中	緑
100HDX	100Mbps/Half Duplexで接続中	緑
100FDX	100Mbps/Full Duplexで接続中	緑
1000FDX	1000Mbps/Full Duplexで接続中	緑

手順

- 1 コンテンツフレームから「Ports」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Port Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Link」にポートの通信状態が表示されます。

4.4 バーチャル LAN の設定

スイッチの設定により、論理的にブロードキャストドメインを分割するバーチャル LAN (VLAN) 機能について説明します。

VLAN を利用することにより、機器内部に仮想的なグループを作成し、パケットの転送範囲を制限することが可能です。

レイヤー 2 スイッチは、宛先の MAC アドレスとフォワーディングデータベースを用いて不要なトラフィックをフィルタリングする機能は持ちますが、未学習の宛先 MAC アドレスを持つユニキャストパケットと、マルチキャスト/ブロードキャストパケットは全ポートに出力します。VLAN を作成して頻繁に通信を行うホスト同士をグループ化することにより、不要なトラフィックの影響を受ける範囲を限定し、帯域をより有効に活用できるようにします。

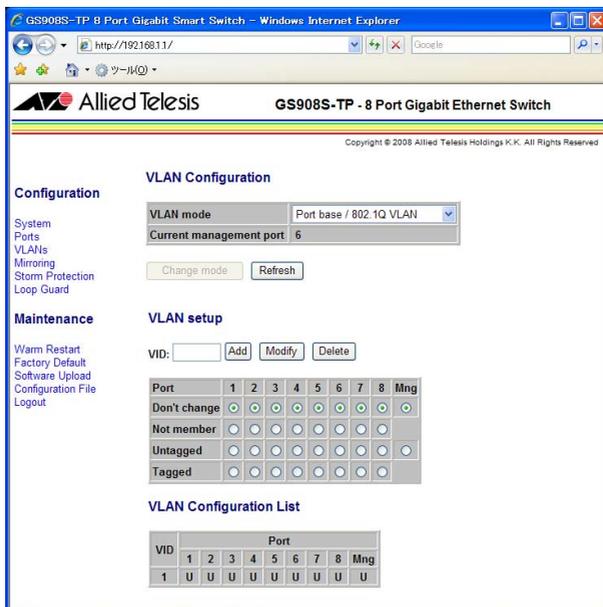


注意

本製品は Web ブラウザーによる設定のため、設定用コンピューターが接続しているポートが所属する VLAN を変更すると、それ以降、本製品と設定用コンピューターの通信ができなくなります。その場合、設定用コンピューターを変更した VID に所属しているポートに接続し直す必要があります。

ポート VLAN/ タグ VLAN の設定

「VLAN Configuration」メニューでは、VLANの作成、変更、または削除を行います。本製品では32個のVLANを作成でき、ご購入時には全ポートがVLAN 1に所属しており、Web 設定画面へのアクセスや相互に通信可能な状態になっています。



パラメーター

VLAN mode	Port base/802.1Q VLANまたはSelectable port multiple VLANを選択します。								
Current management port	設定用コンピューターと通信を行っているポート番号が表示されます。								
VID	VLANのIDを入力します。 2-4094までの半角数字で入力します。 重複した番号は使用できません。								
Port Settings	作成するVLANに所属するポートを選択します。 Untaggedは複数のVLANに登録できません。								
	<table border="0"> <tr> <td>Don't change</td> <td>設定変更を行わないポート</td> </tr> <tr> <td>Not member</td> <td>VLANに所属していないポート</td> </tr> <tr> <td>Untagged</td> <td>タグを使用しないポートとして所属</td> </tr> <tr> <td>Tagged</td> <td>タグを使用するポートとして所属</td> </tr> </table>	Don't change	設定変更を行わないポート	Not member	VLANに所属していないポート	Untagged	タグを使用しないポートとして所属	Tagged	タグを使用するポートとして所属
Don't change	設定変更を行わないポート								
Not member	VLANに所属していないポート								
Untagged	タグを使用しないポートとして所属								
Tagged	タグを使用するポートとして所属								

4.4 バージナル LAN の設定

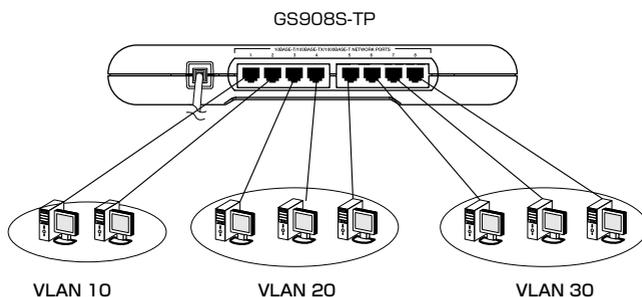
VLAN名とVIDについて

本製品は、VLAN名=VIDで設定を行います。例えば、VLAN 10の場合VIDは10です。ご購入時の状態では、全ポートがVLAN 1 (VID = 1) に所属しており、相互に通信可能な状態になっています。

ポートVLANの作成

ポートVLANはポート単位でVLANの範囲を設定する基本的なVLANです。作成したVLANにタグなしポートとして割り付けることで構築できます。ポートは1つのVLANにだけ所属できます。

ここでは次のようなネットワーク構成例と手順を説明します。



VLAN 10、20、30を作成します。

VLAN 10にはポート1～2をタグを使用しないポートとして割り当てます。

VLAN 20にはポート3～5をタグを使用しないポートとして割り当てます。

VLAN 30にはポート6～8をタグを使用しないポートとして割り当てます。

この構成では、物理的には1台のスイッチでありながら、ネットワークとしては3台のスイッチに分割されたような状態となります。この状態ではVLAN 10、20、30は互いに通信できません。



ポートは、タグなしポートとして1つのVLANにだけ所属できます。

ヒント

手順

- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 VLAN 10を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「10」を入力し、ポート1～2は「Untagged」を選択します。
- 4 「Add」ボタンをクリックします。設定が直ちに反映し保存されます。VLAN 10が「VLAN Configuration List」に登録されます。
- 5 同様にVLAN 20(ポート3～5)、VLAN 30(ポート6～8)を作成し、ポートの設定を行います。



設定用コンピューターに接続しているポートをマネージメントポート (Mng) として VLAN10,20,30 のいずれかに所属させる必要があります。マネージメントポート (Mng) を VLAN に所属させるには、VLAN 作成時に「Untagged」を選択してください。

VLAN Configuration List

VID	Port								
	1	2	3	4	5	6	7	8	Mng
1									
10	U	U							
20			U	U	U				
30						U	U	U	U

4.4 バーチャル LAN の設定

タグVLANの作成

タグVLANを使用すると、1つのポートを複数のVLANに所属させることができます。これは、イーサネットフレームにVLAN IDの情報を挿入し、各フレームが所属するVLANを識別できるようにすることによって実現されます(802.1Q VLAN タギング)。

タグVLANは、VLAN分割の際に機器を意識することがないので、複数のVLANを複数のスイッチにまたがって作成したい場合や、802.1Q対応サーバーを複数のVLANから共用したい場合などに利用できます。



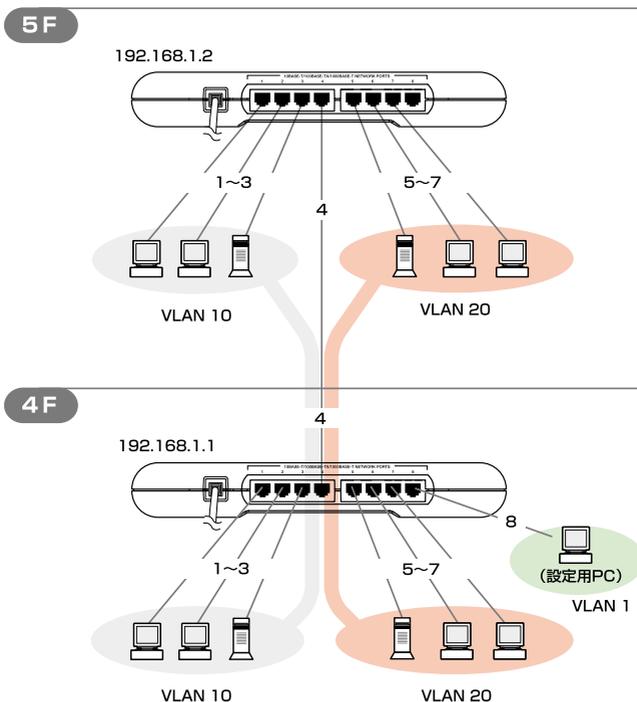
タグ付きのポートに接続するサーバーやルーターはタグVLAN (IEEE 802.1Q) に対応している必要があります。

VLANタグを利用したスイッチ間接続

VLANタグを利用して、2台のスイッチにまたがるVLANを作成します。ポート4をタグ付きに設定し、VLAN 10、20両方のトラフィックがスイッチ間で流れるように設定します。

ここでは次のようなネットワーク構成を例に説明します。

IPアドレスが重複しますので、機器を接続する前にIPアドレスを変更してください。



VLAN 10、20を作成します。

VLAN 10には、ポート1～3をタグを使わないポートとして設定し、ポート4をタグを使用するポートとして設定します。

VLAN 20には、ポート5～7をタグを使わないポートとして設定し、ポート4をタグを使用するポートとして設定します。

この設定をスイッチAとBに行います。

手順

- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 VLANモードが「Port base / 802.1Q VLAN」に設定されているか確認します。「Selectable port multiple VLAN」が設定されている場合、「Port base/802.1Q VLAN」にモードを変更します。
VLANモードのドロップダウンリストから「Port base/802.1Q VLAN」を選択します。「Change mode」ボタンをクリックします。
- 4 VLAN10を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「10」を入力します。ポート1～3は「Untagged」を選択し、ポート4は「Tagged」を選択します。
- 5 「Add」ボタンをクリックします。設定が反映され、VLAN 10が「VLAN Configuration List」に登録されます。
- 6 VLAN20を作成し、ポートを追加します。
「VID」テキストボックスに「20」を入力します。ポート5～7は「Untagged」を選択し、ポート4は「Tagged」を選択します。
- 7 「Add」ボタンをクリックします。設定が反映され、VLAN 20が「VLAN Configuration List」に登録されます。

VLAN Configuration List

VID	Port								Mng
	1	2	3	4	5	6	7	8	
1				U				U	U
10	U	U	U	T					
20				T	U	U	U		

- 8 手順1から7をもう一方のスイッチにも行います。

4.4 バーチャル LAN の設定



- ・この設定では、ポート 4 は VLAN 1 にも（タグなしポートとして）所属したままになっています。他にも VLAN 1 所属のポートがあってトラフィックが流れている場合、ポート 4 にも VLAN 1 のブロードキャストパケットが送出されます。これが望ましくない場合は、ポート 4 を VLAN 1 から削除（Not member に設定）します。
- ・本製品の IP アドレスを変更していない場合、IP アドレスが重複しますので、機器を接続する前に IP アドレスを変更してください。



45 ページ「IP ホストの設定」

VLAN の変更

VLAN に所属するポートおよびポートのタグ付き / タグなしの設定を変更します。

手順

- 1 「VID」テキストボックスに、変更する VID を入力します。
- 2 変更するポートの所属を「Not member」、「Untagged」、「Tagged」より選択します。
- 3 「Modify」ボタンをクリックします。

VLAN の削除

作成した VLAN を削除します。

手順

- 1 「VID」テキストボックスに削除する VID を入力します。
- 2 「Delete」ボタンをクリックします。VLAN 1 は削除できません。



VLAN を削除したとき、いずれの VLAN にも所属しなくなったポートは VLAN 1 に変更されます。

セレクトアブルポート・マルチプル VLAN の設定

マルチプルVLANを使用するとインターネットマンションや学校などのセキュリティーを必要とするネットワークを簡単に構築することができます。

本製品はVLANモードを802.1QVLANからマルチプルVLANモードに切り替えることによって、自動的にマルチプルVLAN専用のVLANを構築します。

マルチプルVLANモードを選択すると自動的にUV、CV、NVという3つの属性に分類されるVLANが作成されます。VLANの設定は固定で、新規VLANの作成やVLAN名の変更はできませんが、ポートをUV、CV、NVのいずれかのVLANに任意に割り当てることができます。UV、CV、NVの各属性とVLANの定義は下表のとおりです。

	UV アップリンクVLAN	CV クライアントVLAN	NV ノーマルVLAN
属性	ルーター（インターネット）やサーバーなどの共有機器の接続を行うためのVLAN	各部屋や教室など互いの通信を制限するコンピューターの接続を行うためのVLAN	通常のスイッチとして使用するためのマルチプルVLANから独立したVLAN
VLAN数 (固定)	2個	8×2個	10個
VLAN名 (固定)	UV-A UV-B	CV-A 1～8 CV-B 1～8	NV1～NV10
VLAN ID (固定)	UV-A: 100 UV-B: 200	CV-A 1～8: 100 CV-B 1～8: 200	1～10
所属ポート	1個のVLANに対して複数ポートの割り当てが可能		

下図はGS908S-TPでマルチプルVLANモードを選択した場合のVLAN構成です。NV-1には初期状態でポートが割り当てられていますが、これらは変更が可能です。

VLAN名	所属ポート(デフォルト)
NV-1	1～8

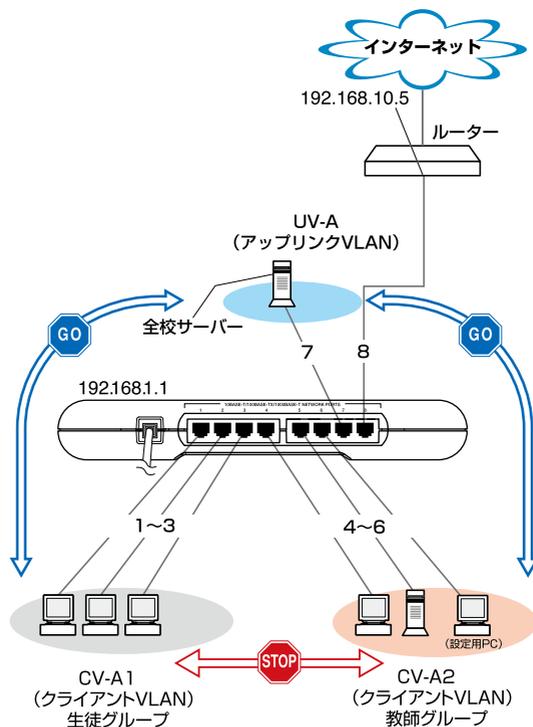
マルチプルVLANの仕様

- ・ クライアントポート(CVに属するポート)間では通信ができません。
- ・ クライアントポートとアップリンクポート(UVに属するポート)間では通信が可能です。
CV-Aと可能なアップリンクポートはUV-Aです。
CV-Bと可能なアップリンクポートはUV-Bです。
- ・ アップリンクポートとクライアントポートのグループ(マルチプルVLAN)とノーマルVLAN(NV)間では通信ができません。
- ・ ポートミラーリング機能との併用は可能です。
- ・ 802.1Qタグ付きパケットのタグは認識せず、そのまま破棄されます。

4.4 バーチャル LAN の設定

マルチプルVLANを使用したネットワーク構成例を示します。

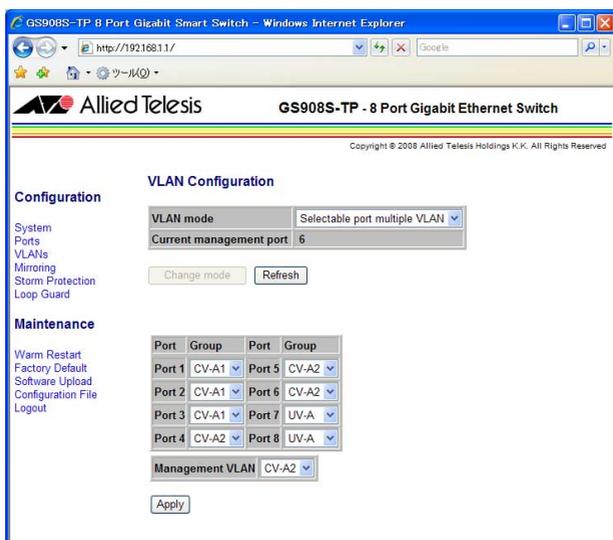
下図の例では、ポート1～3はCV-A1、ポート4～6はCV-A2、ポート7、8はUV-Aに、それぞれ属しています。CV-A1とCV-A2はクライアント用のグループで、互いに通信することはできません。一方、UV-Aはアップリンク用のグループで、ポート7に接続された全校サーバーと、ポート8に接続されたルーターにはCV-A1とCV-A2の両方のグループからアクセスすることができます。



「マルチプルVLANを使用した設定」構成例

手順

- 1 コンテンツフレームから「VLANs」をクリックします。
- 2 メインフレームに「VLAN Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Port base/802.1Q VLAN」から「Selectable port multiple VLAN」にモードを変更します。
VLANモードのドロップダウンリストから「Selectable port multiple VLAN」を選択します。「Change mode」ボタンをクリックします。
※ポート4～6以外のポートでWEB GUIにアクセスしている場合、UTPケーブルをポート4～6のいずれかに接続しなおし、「Refresh」ボタンをクリックしてください。
- 4 UV-A、CV-A1、CV-A2の各VLANにポートを割り当てます。
「Group」のドロップダウンリストから各VLANを選択します。ポート1～3は「CV-A1」、ポート4～6は「CV-A2」、ポート7と8は「UV-A」を選択します。
- 5 Management VLANを設定します。
「Group」のドロップダウンリストから「CV-A2」を選択します。
- 6 「Apply」ボタンをクリックします。

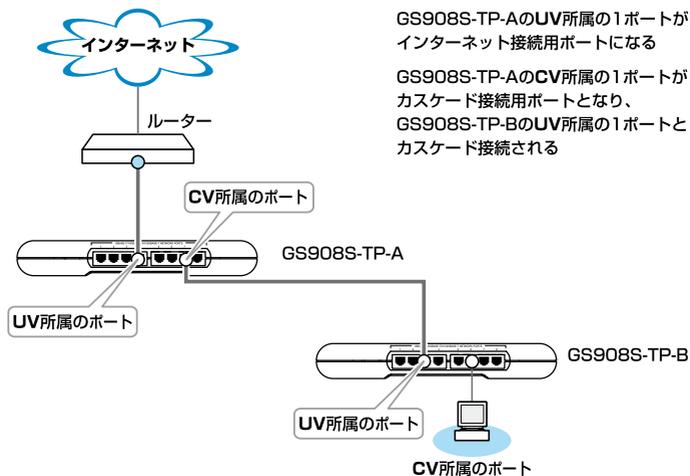


4.4 バーチャル LAN の設定



ヒント

- ・マルチプル VLAN 設定ポート同士でカスケード接続する場合は、UV 所属のポートと CV 所属のポートを接続するようにします。
- ・UV 所属のポート同士を接続しないでください。本製品配下のコンピューター同士の通信が可能になりセキュリティが保たれません。



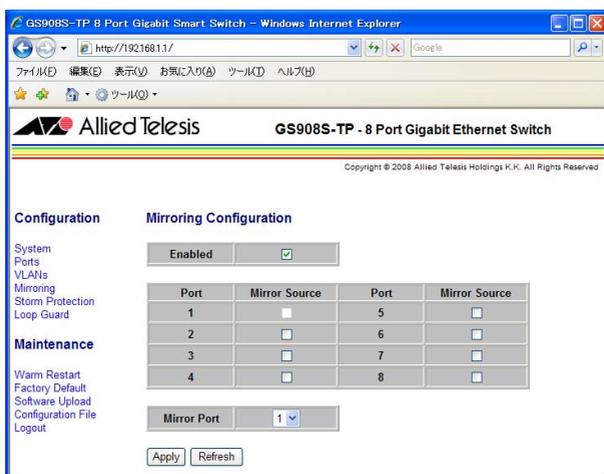
4.5 ポートミラーリング

ポートミラーリング

ポートミラーリングは、特定のポートを通過するトラフィックをあらかじめ指定したミラーポートにコピーする機能です。パケットを必要なポートだけに出力するスイッチではパケットキャプチャーなど困難ですが、ポートミラーリングを利用すれば、任意のポートのトラフィックをミラーポートでキャプチャーできます

ポートミラーリングの仕様

- ・コピー可能なトラフィックは受信パケット (Rx) のみです。
- ・VLAN でタグ付きポートに設定したポートは、ミラーポートに設定できません。
- ・ミラーポートに設定されたポートは通常のスイッチポートとしては機能しません。
- ・マネージメントポートはミラーポートに設定できません。
- ・すでに別のポートがミラーポートとして設定されていた場合、先に設定されていたポートはミラーポートでなくなり、VLAN 1所属のタグなしポートとなります。ミラーポートになったポートは、どのVLANにも所属しません。



4.5 ポートミラーリング

パラメーター

表示	回線状態	背景色
Enabled	ポートミラーリングの設定をします。 チェックボックスで有効/無効を切り替えます。 有効: チェックを付ける。 無効(デフォルト): チェックを外す。	
Port	ポート番号です。	
Mirror Source	ソースポートに設定したいポートにチェックを付けます。 ソースポートは複数のポートを選択できます。	
Mirror Port	ミラーポートに設定したいポートを選択します。 ミラーポートは 1 ポートのみ選択できます。	

手順

- 1 コンテンツフレームから「Mirroring」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Mirroring Configuration」画面が表示されます。
- 3 ポートミラーリング機能を有効にするには、「Enabled」チェックボックスにチェックを付けます。ポートミラーリング機能を無効にするには、「Enable」チェックボックスのチェックを外します。
- 4 「Mirror Source」チェックボックスから、ソースポートに設定したいポートにチェックを付けます。
- 5 「Mirror Port」ドロップダウンリストから、ミラーポートを 1 ポート選択します。
- 6 「Apply」ボタンをクリックします。

4.6 パケットストームプロテクション

パケットストームプロテクション

パケットストームプロテクションは、ブロードキャスト/マルチキャスト/未学習のユニキャストの受信レートに上限を設定し、パケットストーム(突発的な大量パケットの受信)を防止するための機能です。設定値を上回るレートでこれらのフレームを受信した場合、フレームは破棄されます。



各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

Broadcast Rate	ブロードキャストフレームの上限値を設定します。
Multicast Rate	マルチキャストフレームの上限値を設定します。
Unknown unicast Rate	未学習のユニキャストフレームの上限値を設定します。

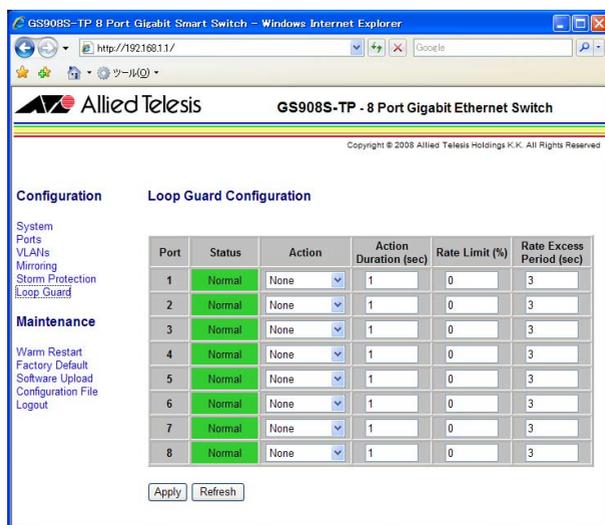
手順

- 1 コンテンツフレームから「Storm Protection」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Storm Protection Configuration」画面が表示されます。
- 3 フレームの最大透過レートを設定します。
ドロップダウンリストから数値を選択してください。「No limit」はパケットの制限を行いません。
- 4 「Apply」ボタンをクリックします。

4.7 ループガード

ループガード

接続ミスなどで発生するネットワークのループを検出し、設定した動作（ポートディセーブルなど）を自動実行します。



各パラメーターの意味と設定の手順は、次のとおりです。

パラメーター

Port	ポート番号です。
Status	各ポートの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none">・ Normal (緑) 通常動作・ Port Disable (赤) ポート無効・ Link Down (赤) リンクダウン
Action	ループを検出した場合の、アクションを設定します。 <ul style="list-style-type: none">・ None 何もしない・ Port Disable リンクを維持したまま通信を停止する・ Link Down リンクを切断する
Action Duration	アクションの継続時間を1秒～86400秒の間で設定します。デフォルトは1です。
Rate Limit	受信レートの上限值を0%～99%の間で設定します。デフォルトは0(ループガード無効)です。
Rate Excess Period	受信レートが上限値を超えた場合、ループと判断するまでの時間を1秒～10秒の間で指定します。デフォルトは3です。



ヒント

「Rate Limit」を0%に設定すると、ループガードは無効となり「Action」で設定した動作は行われません。



注意

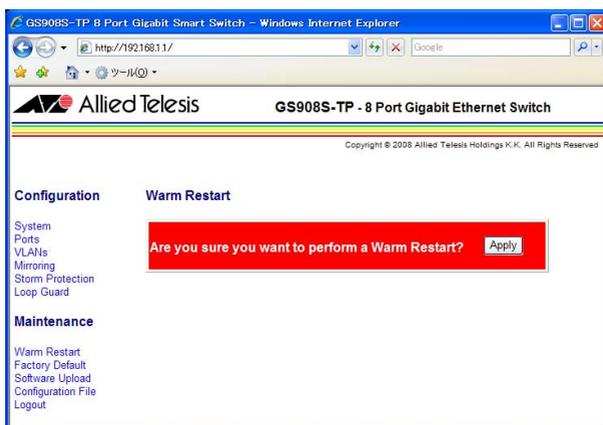
ループガードとバケットストームプロテクションを併用した場合、ループの検出はバケットストームプロテクションで破棄される前の受信レートで判定を行います。

手順

- 1 コンテンツフレームから「Loop Guard」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Loop Guard Configuration」画面が表示されます。
- 3 「Action」ドロップダウンリストからループが発生した場合のアクションを選択します。
- 4 「Action Duration」にActionの継続時間(秒)を入力します。
- 5 「Rate Limit」に受信レートの上限値(%)を入力します。
- 6 「Rate Excess Period」に受信レートが上限値を超えた場合にループと判断するまでの時間(秒)を入力します。
- 7 「Apply」ボタンをクリックします。

4.8 再起動する

「Warm Restart」メニューにより、本製品を再起動できます。



手順

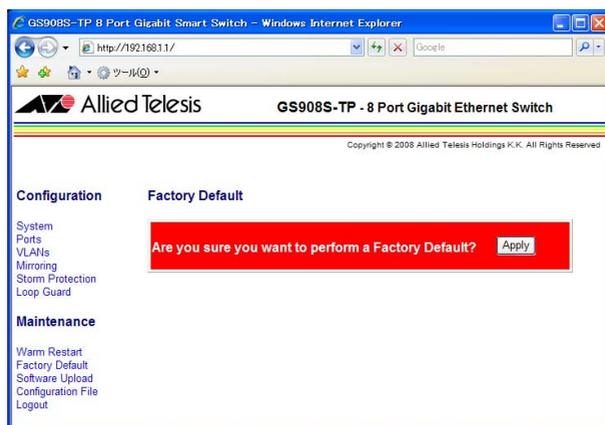
- 1 コンテンツフレームから「Warm Restart」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Are you sure you want to perform a Warm Restart?」が表示されます。
- 3 「Apply」ボタンをクリックします。
メインフレームに「System Reboot will take a couple of seconds...」、
「Select another page.」と表示されます。



再起動のプロセスが完了するまで約 10 秒間かかります。10 秒後に他のページをクリックしてください。再起動のプロセスが完了するとログイン画面が表示されます。

4.9 工場出荷時の設定に戻す

本製品を工場出荷時状態に戻すには、コンテンツフレームから「Factory Default」をクリックします。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Factory Default」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Are you sure you want to perform a Factory Default?」が表示されます。
- 3 「Apply」ボタンをクリックします。
初期化が完了すると「System Config Update Complete...」、「Select another page...」とメインフレームに表示されます。



「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイアドレス」は初期化されません。



84 ページ「デフォルト設定」

4.10 ファームウェアのアップデート

弊社は、改良（機能拡張、不具合修正など）のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

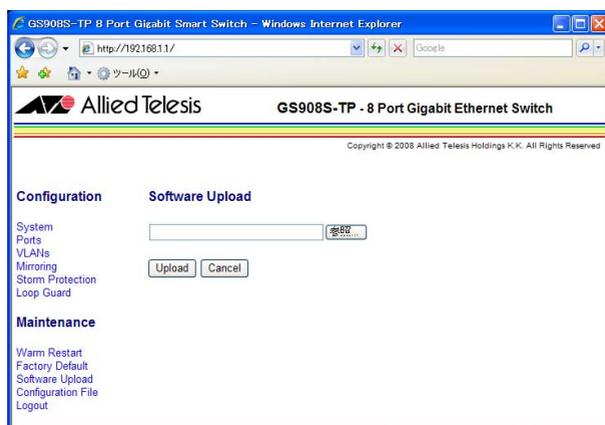
なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

本書では、アップロードを次のように定義します。

アップロード：設定用コンピューターから本製品へのデータの転送

本製品にインストールされているファームウェアのバージョンは、「System Configuration」画面にてご確認ください。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Software Upload」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Software Upload」画面が表示されます。
- 3 「参照...」ボタンをクリックすると「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。
- 4 設定用コンピューターに保存されているファームウェアを指定し、「開く」ボタンをクリックします。テキストボックスにパスが表示されます。
- 5 「Upload」ボタンをクリックします。
ファームウェアのアップロードが始まります。

アップロードが完了すると、「Software successfully loaded」がメインフレームに表示されます。ファームウェアをインストールする場合は「Yes」をクリックします。ファームウェアをインストールしない場合は「No」をクリックします。

ファームウェアのインストールが完了すると本製品が再起動します。続けて設定を行う場合は、再度、本製品へログインしてください。



注意

- ・アップロード中は、電源を切らないでください。
- ・ファームウェアのアップロード後に「Yes」をクリックせず、他のページへ移動したり、本製品を再起動した場合、アップロードしたファームウェアはインストールされません。
- ・ファームウェアのアップデート時にログインセッションからタイムアウトすると、再度ログインしてファームウェアのアップデートが必要となります。ログインセッションのタイムアウト時間を多めに設定することをお勧めします。デフォルトは10秒です。

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

本製品は、Web 設定画面で設定した内容をバイナリー形式またはテキスト形式で保存できます。さまざまな設定を異なる名前のファイルとして保存しておき、必要に応じて切り替えて使用することができます。

本書では、アップロードおよびダウンロードを次のように定義します。

ダウンロード：本製品から設定用コンピューターへのデータの転送

アップロード：設定用コンピューターから本製品へのデータの転送

メニューの概要

「Binary Configuration Upload」	バイナリー設定ファイルをアップロードする
「Text Configuration Upload」	テキスト設定ファイルをアップロードする
「Binary Configuration Download」	バイナリー設定ファイルをダウンロードする
「Text Configuration Download」	テキスト設定ファイルをダウンロードする

ファイルタイプ

拡張子	ファイルタイプ
cfg	バイナリー設定ファイル システムの設定、VLANの設定、ポートの設定などの全ての情報を保持します。
txt	テキスト設定ファイル システム名、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定情報を保持します

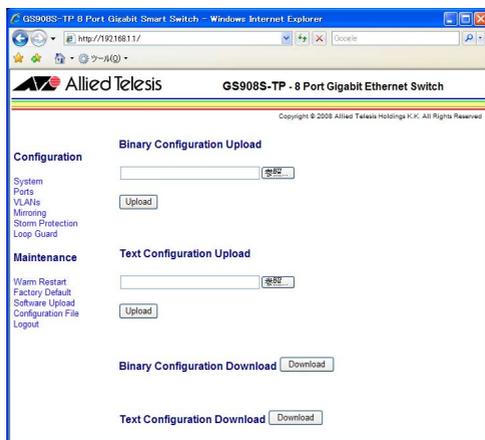


設定情報をバックアップする場合、「バイナリー設定ファイル」をダウンロードしてください。
「バイナリー設定ファイル」には「テキスト設定ファイル」の情報も含まれます。

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのアップロード

「Configuration File」メニューより、保存した本製品のバイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルを読み込むことができます。

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのアップロードの手順は、次のとおりです。



手順

- 1 コンテンツフレームから「Configuration File」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Binary Configuration Upload」、「Text Configuration Upload」が表示されます。
- 3 「参照...」ボタンをクリックすると「ファイルの選択」ウィンドウが表示されます。
- 4 アップロードするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。
- 5 「Upload」ボタンをクリックします。

設定ファイルのアップロードが始まります。

アップロードが完了すると、「System Config Update Complete...」と表示されます。



設定ファイルのアップロードが完了すると、自動でインストールが開始されます。インストール完了後、再起動の必要はありません。

4.11 設定ファイルのアップロード・ダウンロード

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのダウンロード

「Configuration File」メニューより、本製品で設定したバイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルを設定用コンピューターへ保存できます。

バイナリー設定ファイル、テキスト設定ファイルのダウンロードの手順は、次のとおりです。

手順

- 1 コンテンツフレームから「Configuration File」をクリックします。
- 2 メインフレームに「Binary Configuration Download」、「Text Configuration Download」が表示されます。
- 3 「Download」ボタンをクリックします。
- 4 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 保存先を指定し「保存」ボタンをクリックします。
設定ファイルのダウンロードが始まります。



ダウンロード中は、電源を切らないでください。

注意

5

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、サポート機能の主なデフォルト設定、保証とユーザーサポートについて説明しています。

5.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

システム情報を確認する

お問い合わせの前に各ポートの設定または状態を確認してください。
設定または状態はWeb設定画面のコンテンツフレームから「Ports」をクリックして表示される「Port Configuration」画面で確認できます。

 50 ページ「ポートの設定」

LED 表示を確認する

LEDの状態を確認してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 19 ページ「LED 表示」

トラブル例

電源ケーブルを接続してもPWR LEDが点灯しない

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか
別の電源コンセントに接続してください。

PWR LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか
電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもLINK/ACT LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

本製品は、通信モードの固定設定ができます。接続先の機器を確認して、Web設定画面で通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリー

10BASE-Tの場合はカテゴリー 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリー 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリー 5以上のUTPケーブルを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

通信モードがオートネゴシエーションかつMDI/MDI-X自動切替が有効な場合、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用できます。

通信速度を10Mbps/100Mbpsに固定設定した場合、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要がありますので、その場合はケーブルタイプに注意してください。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

Force MDI切替スイッチが「FORCE」(上)側の場合、Web設定画面でMDI/MDI-Xの設定を行うことはできません。1～7番ポートがMDI-X、8番ポートがMDIで固定されます。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。



24 ページ「ネットワーク機器の接続」

5.1 困ったときに

LINK/ACT LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

コンテンツフレームから「Ports」を選択し、Linkが「Disabled」と表示されていないか確認してください。

本製品にアクセスできない

ユーザー名、パスワードが間違っていないですか

本製品へのアクセスを制限するために、ユーザー名とパスワードが設定されています。デフォルトから変更したユーザー名、パスワードを忘れてしまうと、本製品にアクセスできません。

IPアドレスはありますか

本製品にアクセスするためには、本製品のIPアドレスと設定用コンピューターのIPアドレスが合っている必要があります。

マネージメントポートが適切なVLANに所属していますか

本製品にアクセスするためには、マネージメントポートが所属するVLANに接続ポートが所属している必要があります。



43 ページ 「パスワードの設定」



27 ページ 「設定の手順」

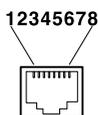
5.2 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクタ・ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T インターフェース

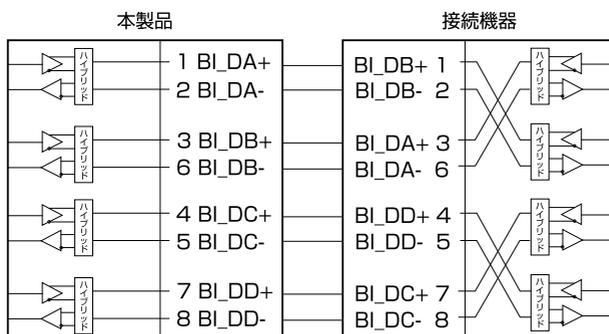
RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	10BASE-T 100BASE-TX		1000BASE-T	
	MDI	MDI-X	MDI	MDI-X
1	TD + (送信)	RD + (受信)	BI_DA +	BI_DB +
2	TD - (送信)	RD - (受信)	BI_DA -	BI_DB -
3	RD + (受信)	TD + (送信)	BI_DB +	BI_DA +
4	未使用	未使用	BI_DC +	BI_DD +
5	未使用	未使用	BI_DC -	BI_DD -
6	RD - (受信)	TD - (送信)	BI_DB -	BI_DA -
7	未使用	未使用	BI_DD +	BI_DC +
8	未使用	未使用	BI_DD -	BI_DC -

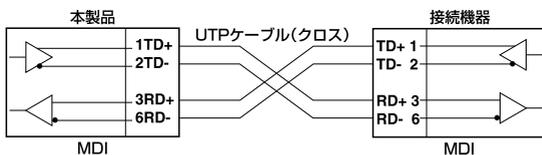
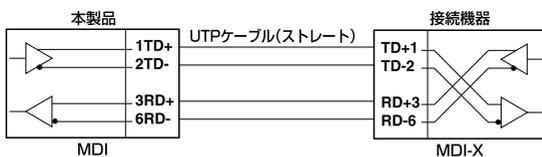
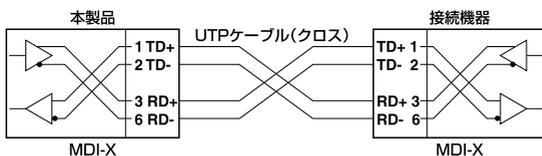
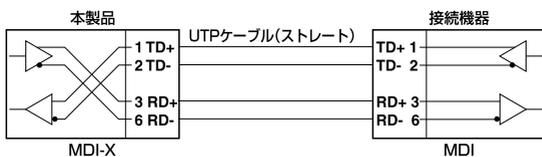
ケーブルの結線は下図のとおりです。

○ 1000BASE-T



5.2 仕様

○ 10BASE-T/100BASE-TX



本製品の仕様

準拠規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3x Flow Control
適合規格	
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1
EMI規格	VCCIクラスB
電源部	
定格入力電圧	AC100-120V
入力電圧範囲	AC90-132V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.2A
最大入力電流 (実測値)	0.17A
平均消費電力	7.1W (最大 8.3W)
平均発熱量	25kJ/h (最大 30kJ/h)
環境条件	
保管時温度	-20～60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0～40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	260 (W) × 80 (D) × 37 (H) mm
質量	
	500g
スイッチング方式	
	ストア&フォワード
MAC アドレス登録数	
	8 K (最大)
MAC アドレス保持時間	
	300～600秒
メモリー容量	
パケットバッファ容量	176 KByte
フラッシュメモリー容量	1024KByte
メインメモリー容量	128 KByte

5.3 デフォルト設定

本製品サポート機能の主なデフォルト設定です。各機能の詳細なデフォルト設定については、4章「設定と操作」を参照してください。

設定	デフォルト
マネージメント	
ユーザー名	manager
パスワード	friend
システム名	GS908S-TP
タイムアウト時間	300 秒
WEB GUI切替スイッチ	有効
Force MDI切替スイッチ	有効
スイッチング	
通信モード	Auto Negotiation
フローコントロール	有効
MDI/MDI-X	Force MDI-X (1 ~ 7番ポート) Force MDI (8番ポート)
ポートミラーリング	無効
ICMPメッセージ	有効
BPDU透過	無効
EAP透過	無効
パケットストームプロテクション	
Broadcast Rate	No limit
Multicast Rate	No limit
Unknown unicast Rate	No limit
ループガード	
Action	None
Action Duration	1 秒
Rate Limit	0%
Rate Excess Period	3 秒
バーチャルLAN (ポートVLAN / タグVLAN)	
VLAN ID	1
バーチャルLAN (セレクトアブルポート・マルチプルVLAN)	
VLAN名	NV 1
IP	
IP アドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0

5.4 保証とユーザーサポート

保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 修理受付窓口

 0120-860332

携帯電話／PHSからは： 045-476-6218

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責をいっさい負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/>

 0120-860772

携帯電話／PHSからは： 045-476-6203

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～18:00

5.4 保証とユーザーサポート

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をご記入いただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてもかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

2 製品について

- 製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)などのハードウェア情報をお知らせください。
製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。

(例)



3 設定やLEDの点灯状態について

- スイッチ類の設定状態をお知らせください。
- LED の点灯状態をお知らせください。

4 お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。
- 可能であれば、早期解決のために、エラーメッセージやエラーコード、設定スクリプトファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

5 ネットワーク構成図について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をあわせて送ってください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社(弊社)の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2008 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMは、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。本書の中に掲載されているファームウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

5.4 保証とユーザーサポート

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

 0120-860442

月～金(祝・祭日を除く) 9:00 ~ 17:30

マニュアルバージョン

2008年 7月 Rev.A 初版

